建設管理センター九州事業部

資格取得に向け「合格対策講座」

重要ポイントを解説

建設管理センター九州事業部は4月27日、国土交通大臣資格である管工事施工管理技士等の各施工管理技士資格を取得するための「合格対策講座」を、鹿児島市の県市町村自治会館で開催。参加者は試験合格に向け、熱心に聴講した。

今回は、同センター専任講師の上田和宏氏がオリジナルテキストを使い、施工管理技士技術検定の重要ポイントを分かりやすく解説。また同資格の目的や現状、近い将来の展望などについても説明した。

なお、本年度の管工事施工管理技術検定の国交省の願書申請は5月9日からとなっている。

分かりやすい解説の中、真剣な表情の参加者＝鹿児島市の県市町村自治会館で

受講希望者を受付中

16日からスタート

同センターでは、今回参加できなかった受講希望者に対し、5月16日からスタートするコースを設け、受講者の受け付けを随時行っている。

開催する講座は、管工事・造園のほか、土木・建築・電気工事・建設機械の1・2級施工管理技士と給水装置工事主任技術者となっている。この講座は、厚生労働大臣指定教育訓練講座（施設番号01020）、キャリア形成促進助成金適用講座として、助成金の受給も可能。

申し込み、問い合わせは、同センター（フリーダイヤル0120・14・5353）まで。

就任インタビュー

県用地対策室長　西岡　一美さん

貴重な人生経験

——就任の抱負を。

用地業務は、やりがいがある反面、夜間交渉など時間も不規則。若い人たちには敬遠されがちだが、貴重な人生経験と前向きに捉えてほしい。補償業務が「貴重な税金で成り立っている」ことを忘れず、積極的な情報公開にも努めていきたい。

——就任の抱負を。

土地収用法適用のタイミング、所管課との連携等が事業の円滑化に大きく関わってくる。職員のレベルアップも必須。女性職員の育成や専門職員による特命班の設置、県外地権者への地元交渉員制度の創設等にも取り組んでいきたい。

——趣味等は。

現役アスリート（ハードラー）として、県マスターズ陸上競技連盟の副理事長も務める。

手権優勝、全日本3位の実績。ほか、映画鑑賞、温泉めぐり、料理—などと趣味は多彩。

経歴

薩摩川内市（旧川内市）出身。早稲田大学社会科学部を卒業後、昭和51年入庁。新種子島空港や九州新幹線の用地買収等にも携わった。

鹿児島市花野光ケ丘に邦子夫人と2男1女の5人暮らし。54

県大島支庁建設部建設課長　岡積　登さん

交通基盤の充実を

——建設課として最初の課長に就任、抱負を。

奄美大島は23年ぶりの赴任となる。その頃と比べると交通事情は格段に良くなっているが、整備が必要な個所もまだまだ多いと感じる。最重要課題と捉える交通基盤の充実を図るとともに台風や火山

献したい。

——これまでに印象に残る出来事は。

河川関係を長くやっていたため、やはり平成5年の8・6水害のことが忘れられない。ほかには本土で業務に携わっていた和ダムがこのほど完成したことは大変感慨深いものがある。

——建設業界に一言。

団塊の世代が次々と去っていく中、

承していくとともにさらなる向上を目指してほしい。発注者と請負者は立場こそ違え、お互い同じ仕事をしていく仲だと考えている。一致協力して地域発展のため尽力していきたい。

経歴

昭和53年入庁。都市計画課を皮切りに大島支庁港湾課、鹿児島土木事務所ダム建設課長、技術管理課技術審査官を歴

「須田木橋」渡り初め式

住民らと完成祝う

知覧町麓地区に建設が進められていた須田木橋がこのほど完成。これを記念する「渡り初め式」が5日、関係者らが参加して行われ、全員で同橋の完成を祝った。

知覧まち商工会主催、知覧町商工会青年部および知覧町の共催で行われた神事には、霜出勘平町長をはじめ、安藤醤司町議、梶山勉県南薩地域振興局長、藤元泰正同町商工会長、真茅重治知覧まち商工会長、施工業者ら関係者のほか周辺住民ら約100人が出席。

神事では、出席者代表が次々に神前へ玉ぐしを捧げた。続いて、霜出町長ら関係者によるテープカットが行われると、出席者から大きな拍手が上がった。最後に、畳玉姫神社の赤崎千春宮司を先頭に橋の渡り初めを行い、全員で同橋の完成を祝った。

同橋は、地元住民から利便性の向上求める要望を受けて、中郡町周辺整備事業の一環として架け替えが行われることになったもの。主な概要として、橋長23・3m、幅員13m（車道6m、歩道3m）、基礎工は杭基礎（鋼管杭φ800㎜、L17m）で、下部工には逆T式橋台（H6・6～7・3m）を採用し、上部工はプレテンション方式によるPC単純中空床版橋を採用。総事業費は1億8014万円（下部工＝1億2214万円、上部工＝5800万円）をかけ、平成19年3月に完工した。

周辺住民らも参加し完成を祝った式典＝知覧町の現地で

堀之内建設が清掃ボランティア

須田木橋 渡り初め前に

5日に知覧町麓地区で行われた「須田木橋」の渡り初め式典に先立ち、同橋を施工した㈱堀之内建設（今村次典社長）がこのほど、同橋周辺の清掃作業をボランティアで実施した。

作業は、同橋を中間地点に、上流側と下流側の周辺区域およそ1・5km区間で実施され、社員らは刈払機を手に、河川敷の傾斜部に群生する雑草を手際よく除草。刈り取られた雑草やごみなどを次々とトラックへと積み込む光景が見られた。終日かけた作業で橋の周辺はきれいに清掃され、渡り初めを前に準備が整った。

今村社長は「これで、どうにか橋の渡り初め式典を迎える準備が整った。以前は幅員が狭く離合がしづらかった。また、施工中も利用者の方々に他の道路へ回をしていただくなど、何かと不便をかけたことが多かったので、新しく生まれ変わった橋を気持ちよく利用していただきたい」と語った。

懸命に作業に取り組む社員＝知覧町の須田木橋周辺で

マエダハウス「前庄会」が奉仕活動

谷山知覧線を清掃

マエダハウス㈱（前田浩之社長、知覧町）と同社の協力会社で構成する「前庄会」（西園宗作会長）が3日、主要地方道谷山知覧線沿いの清掃作業をボランティアで実施。早朝からの奉仕作業に、会員らはさわやかな汗を流した。

今回のボランティアは、同町で開かれる特攻隊戦没者の慰霊祭に合わせて、石原慎太郎東京都知事をはじめ各界の著名人らが式典に参加することから、気持ちよく迎えるために計画された。

午前6時、同町手賀にある霜出マザーパークに集合した会員らを前に、前田社長が「交通量が多い路線なので、作業の際は事故には十分注意してほしい」と挨拶。その後、西園会長が作業上の注意事項と作業場所を指示。会員らは早速、持ち場へと向かって作業に取り掛かった。

作業は、霜出マザーパークから鹿児島市喜入瀬世串町までの約3kmの区間で約3時間に実施。路線上には、空き缶や弁当ガラのほか、テレビなどの家電製品なども投棄されており、トラックに次々とごみが積み込まれた。

作業後、前田社長は「今回のボランティアを通じて、会員が気持ちを一つにして問題に取り組むことの大切さを再確認できた。今後も、あらゆる角度から地域のための活動をしていきたい」と語った。

参加業者は次の通り。

マエダハウス　宗作インテリア　廣澤板金塗装　田中木工　田代水道　井料工務店　佐多クレーン　恒吉板金　宮崎木工　城ケ崎ふすま　松山木工